

令和7年度 東淀中学校のあゆみ  
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

成果と課題

○全国学力学習状況調査(3年生)結果

・国語は全国平均に対比して88%、大阪市平均に対比して92%とともに下回った。無回答数は全国平均に対比して154%、大阪市平均に対比して151%とともに上回った。正答数は5問まで本校は33.5%、全国は22.5%、大阪府で23.2%となり、10～14問の正答は本校で18.6%、全国で25.8%、大阪府で22.8%、大阪府で23.2%となった。領域ごとの全国平均との比較は「話すこと、聞くこと」が-7.6ポイント。「書くこと」-5.9ポイント。「読むこと」-6.1ポイントとなっている。令和6年度の全国平均との領域ごとの比較は「話すこと、聞くこと」が-4.0ポイント「書くこと」は-5.6ポイント。「読むこと」-5.3ポイントとなっている。このことから令和6年度から比較しても全て下回っているのがわかる。

・数学は全国平均に対比して81%、大阪市平均に対比して85%とともに下回った。無回答数は全国平均に対比して158%、大阪市平均に対比して149%とともに上回った。正答数は5問まで本校は34.0%、全国は23.8%、大阪市26.9%、大阪府で26.7%であり、10～14問の正答は本校で12.2%、全国で27.0%、大阪府で25.1%、大阪府で26.0%となった。領域ごとの全国平均との比較は「数と式」が-10.8ポイント。「図形」-7.0ポイント。「関数」-10.1ポイント。「データの活用」-10.4ポイントとなっている。令和6年度の全国平均との領域の比較は「数と式」が-2.0ポイント。「図形」+0.1ポイント。「関数」-0.9ポイント。「データの活用」-0.2ポイントとなっている。このことから令和6年度から比較しても全て下回っているのがわかる。

また、平均無解答率が全国と大阪市から比較して高く、令和6年度から比較しても、国語において全国で38%、大阪府で42%高くなり、数学においては全国で40%、大阪府で43%高くなっている。

・理科:全国平均に対比して89%、大阪市平均に対比して91%とともに下回った。

○大阪府チャレンジテスト(3年生)結果

国語:大阪府平均に対比して92.2%、大阪市平均に対比して91.4%

社会:大阪府平均に対比して92.8%、大阪市平均に対比して92.2%

数学:大阪府平均に対比して93.1%、大阪市平均に対比して92.4%

理科:大阪府平均に対比して86.3%、大阪市平均に対比して85.4%

英語:大阪府平均に対比して78.4%、大阪市平均に対比して76.7%

<国語>得点分布では府と比較して全体的には同じ傾向であるが、60～64点と70～74点の割合が多く、75～100点の割合が低い。各領域の平均点を対府比で見ると、「話すこと、聞くこと」が94%、「書くこと」が93%、「読むこと」が91%となり、全て下回っている。

<社会>得点分布では府と比較して全体的には同じ傾向であるが、10～49点の割合が高い、70～100点の割合が全て下回っている。各領域の平均点を対府比で見ると、「地理的分野」が95%、「歴史的分野」が90%となり、両方が下回っている。

<数学>得点分布では、昨年度と並びように、府と比較して全体的には同じ傾向であるが、「のこぎり」のようにいびつな結果であり、75点以上の割合で府を下回っている傾向にある。各領域の平均点を対府比で見ると、「数と式」が94%、「図形」が95%、「関数」が92%、「データの活用」が88%となり、全て下回っている。

<理科(B問題)>得点分布では府と比較して、55点以上の割合が全て下回り、5～39点の割合が高い。各領域の平均点を対府比で見ると、「エネルギー」が89%、「粒子」が93%、「生命」が82%、「地球」が90%となり、全て下回っている。

<英語>得点分布では府と比較し、5～39点の割合が高い。55点以上の割合が極端に低い。

各領域の平均点を対府比で見ると、「聞くこと」が85%、「読むこと」が79%、「書くこと」が72%となり、全て下回っている。

○大阪府チャレンジテスト(2年生)結果

国語:大阪府平均に対比して96.2%、数学:大阪府平均に対比して81.7%、英語:大阪府平均に対比して86.6%、

社会:大阪府平均に対比して86.7%、理科:大阪府平均に対比して85.5%

<国語>得点分布の割合では府と比較して、20～24点が2倍ほどあり、55～59点や70～74点が多く、75～100点の割合が低い。ただ、90～94点は若干高い。各領域の平均点を対府比で見ると、「言葉の特徴や使い方に関する事項」が97%、「情報の扱い方に関する事項」が96%、「我が国の言語文化に関する事項」が89%、「話すこと、聞くこと」が98%、「書くこと」が97%、「読むこと」が93%となり、全て下回っている。

<社会A>得点分布の割合では府と比較して、0～4点や10～14点、25～29点が2倍ほど高い。30～34点は半分ほどであり、60～100点が全て下回っている。特に90点以上は低かった。各領域の平均点を対府比で見ると、「地理的分野」が83%、「歴史的分野」が91%となり、両方が下回っている。<数学>

得点分布の割合では府と比較して、0～4点が5倍ほど高い。10～44点は全て高いが、特に35～39点が2倍ほど高い。60～100点は75～79点以外は府を下回っている。特に80～100点が半分ほど低い。各領域の平均点を対府比で見ると、「数と式」が82%、「図形」が82%、「関数」が81%、全て下回っている。

<理科>得点分布の割合では府と比較して、0～19点が2倍ほど高く、20～44点も35～39点を除いて高い。45～100点も75～79点を除いて低い。特に60～64点や70～74点、80～84点は半分以下であり、95点以上は低かった。

各領域の平均点を対府比で見ると、「粒子」が92%、「生命」が79%、「地球」が87%となり、全て下回っている。

<英語>得点分布の割合は府と比較して、0～39点の割合が高い、55～100点は80～84点を除いて全て低い。特に85点以上は半分ほどである。各領域の平均点を対府比で見ると、「聞くこと」が90%、「読むこと」が93%、「書くこと」が80%となり、全て下回っている。

○大阪府チャレンジテスト(1年生)結果

国語:大阪府平均に対比して91.7%、数学:大阪府平均に対比して93.8%、英語:大阪府平均に対比して91.3%

<国語>得点分布の割合では大阪府と比較して、0～14点や55～59点が2倍ほど高い。60点以上は65～69点と75～79点を除いて全て低い。特に90点以上は半分から3分の1ほど低い。各領域の平均点を対府比で見ると、「言葉の特徴や使い方に関する事項」が91%、「情報の扱い方に関する事項」が91%、「我が国の言語文化に関する事項」が88%、「話すこと、聞くこと」が92%、「書くこと」が91%、「読むこと」が90%となり、全て下回っている。

<数学>得点分布の割合では大阪府と比較して、全体的には同じような傾向にある。10～19点が高い。70～74点や85～95点は半分ほどであり、95点以上は低い。各領域の平均点を対府比で見ると、「数と式」が95%、「図形」が94%、「関数」が93%となり、全て下回っている。

<英語>得点分布の割合では大阪府と比較して、0～4点と20～39点が高い。また50～59点と65～79点も高く、80点からは全て下回っている。特に85点以上は半分以下である。

各領域の平均点を対府比で見ると、「聞くこと」は93%、「読むこと」は91%、「書くこと」は89%となり、全て下回っている。

○1年チャレンジテストplus結果:社会は大阪市平均と比較して95.3%、理科は大阪市平均と比較して90.1%であった。

○1年チャレンジテストplus領域別正答率:社会では地理が本校56.3%(大阪市58.3%)、歴史が本校54.9%(大阪市58.3%)。理科では粒子が本校55.7%(大阪市65.2%)、生命が本校57.9%(大阪市67.4%)

○全国体力・運動能力運動習慣等調査(2年)

男子は大阪市平均以上⇒握力、上体起こし、反復横とび、シャトルラン、立ち幅とびがあり、全国平均以上では握力、上体起こし、反復横とび、シャトルランがあった。昨年度から比較すると握力、上体起こし、反復横とび、50m走が上回った。

女子は大阪市平均以上が握力のみとなり、全国平均以上は無かった。昨年度から比較して、握力と長座体前屈が上回った。

<今後に向けて>

全体的に各学力調査において厳しい結果となっている。しかし、この数年は基礎的、基本的な学力の定着を目標として教材作成や授業づくりを行っており「学びなおし」など「個に応じた」学習を進めている。しかし、授業においては授業内容を進めなければいけないので、「自学自習の習慣」を身に付けるような取り組みを取り組んできた。そのため、放課後やテスト前、長期休業中の学習会への参加は5月から2月12日までに「のべ1,064名」の参加があった。また、学校評価アンケートにおいても肯定的な意見が全体的に増加している。このことから授業に対する意欲は全体的には低下していない。また、各学力調査の結果においても、同一母集団で見ると全体的には改善傾向にある。しかし、積極的に教育活動に取り組めない生徒が多い現状もある。そうした中で「班活動」などの仲間づくりや「探求学習」など自ら課題を見つけて解決をしていく活動を積み重ねることにより、学校行事などの取り組みには積極的に参加できる生徒は増加してきたので継続していきたい。また、学習会だけではなく学習者用端末を活用した家庭での学習をさらに進めていきたい。